

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念があり、職員は理念をよく理解し、利用者の日々の生活を理念に基づき支えるよう心がけている。	○	まだ理念が浸透していない部分に関して、職員会議で話し合いをもち、よりよい接遇を目指したい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社の理念を、職員休憩室、トイレ、食堂に貼り、実践している。		会社の理念、職員としての理念を共有しながら介護の仕事ができるようにしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、家族会、毎月の便り等を通し、伝えている。	○	運営推進会議等を通じて、広く伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩等、隣近所の人と、気軽に声をかけ合ったりしている。	○	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くのボランティアセンターの行事、地域の祭り等にてかけている。また、買い物でも出かけている。	○	近隣の方との交流を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実践はしていないが、認知症への理解を得られるよう、勉強会などを開催したいと、話し合っている。	○	認知症への理解を得られるような勉強会を、開催したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング、申し送りノート等を通して、外部評価、自己評価の説明をしている。評価を生かし、改善に取り組んでいる。		今後も評価の努力点を中心に、改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練に推進会議の委員に参加していただき、気づいた点を指摘してもらい、実践している。また、話し合いで出た意見は職員に伝え、サービス向上につなげている。		推進会議を活かして、地域へのつながりを持ち、サービスの向上につなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催を準備する段階でも、市の担当者と相談している。		市としての意見なども聞き、サービスの向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業等の研修会に出る機会は少なく、今後勉強していく必要を感じている。		職員全員、権利擁護や成年後見制度について理解し、活用できるよう支援ができるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所勉強会等で、学び、虐待が見過ごされることがないように注意している。	○	高齢者虐待防止関連法について、勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者や家族に当ホームの説明をし、また、家族側の不安、疑問を尋ね、理解、納得を図っている。</p>		<p>契約、解約時には今後も十分な説明を行いたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が何でもはなしをしやすい関係作りを心がけている。利用者の意見を反映できるよう、話し合い運営に反映させている。</p>		<p>利用者が遠慮することがないように、気をつけたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時、毎月の便りで、報告をしているほか、個別、必要時に電話をするなど報告をしている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に2回家族会を開催し、運営者、管理者は家族の意見を聞き、話し合いを行っている。また、面会時に職員が家族から意見を聞いたときには、管理者、運営者に伝え、運営に反映させている。</p>		<p>家族が意見を言いやすい関係を作っていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に対する意見があるときは、管理者は必要に応じて運営者に伝えている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者、家族の状況に合わせて、柔軟に対応できる体制を、話し合いながら調整している。</p>		<p>今後も、利用者、家族の要望も受け、柔軟な対応をしていけるよう努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員による支援を受けられるように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	機会があるたびに、研修を受けることができ、また、2ヶ月に1回の職場での学習会、地区のグループホーム協会の研修会などにも参加している。	○	計画的に、個人個人の経験年数や希望に応じた勉強に機会を作りたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	鹿児島、川薩地区のグループホーム協会にも加盟し、情報の交換をおこない、勉強会にも協力している。	○	地区のグループホーム以外の同業者とも、ネットワークを作っていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	同会社の他施設との合同の行事を行ったり、職員相互の交流もある。		長期のリフレッシュ休暇がとれるよう、調整を行いたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	資格試験も積極的に受験することをすすめ、資格手当もある。	○	より専門性を持った研修への、継続的な参加ができ、高い目標を持って働ける環境づくりをしたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	見学、相談には積極的に応じ、ゆっくりと話を聞く姿勢をもっている。		積極的に地元の人たちと交流を図りたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	見学、相談にこられた方の話に耳を傾け、いつでも来ていただける場所であると話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者がどのような状況におかれているかを見極め、必要ならば他事業所、公的機関などを紹介している。		的確な対応ができるよう努力したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の様子を見ながら、サービスの内容や仕組みを話したり、他の方々との交流がスムーズに行えるように配慮している。		本人が納得できるよう、工夫したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話をしていただいたり、それぞれが培ってきた、倫理観などから、人生の先輩としての教えをいただき、職員も人間として成長できるよう学んでいる。		職員は介護される方の気持ちに配慮し、支えあう関係を作る。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会にいらっしゃったときには、できるだけ、いつもの様子をお伝えし、家族を思っている様子などもお話している。		よりよい関係を築きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	向きあうと口にはしないような言葉を聴いたときには、書き留めておき、本人の言葉としてご家族にお伝えしている。		ご家族も一緒に参加していただける行事等を計画し、開催したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつも行っていた場所に買い物やドライブにでかけ、懐かしい人に会う機会も作っている。	○	他施設に入居している方への面会に伺いたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話のきっかけを作ったり、お互いの部屋の訪問が行えるように支援したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方に写真を届けたり、年賀状で近況をお知らせしたりしている。		関係の継続を考えたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの希望や不安に向き合い、不安がうすらぐような会話や、傾聴に心がけている。		それぞれにあった暮らし方ができるよう気を配りたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族に生活歴などを聞き、よりよい暮らし方ができるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今までできていたことができなくなったり、日々の心身の状態を記録し、現状を的確に把握できるよう努めている。		利用者の有する力を、できるだけ使った生活ができるよう、現状を総合的に把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろから、よりよく暮らすための課題に関し、職員間で共有するように努め、本人、家族の意見をふまえた介護計画を作成している。	○	介護計画の作成と、作成後に、定期的に話し合いを持つ。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じたときには、必要に応じて話し合い、変化に応じた対応で対処するようにしている。		見直しが必要なときには、できるだけ家族とも会う機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉をそのまま記入したり、そのときの状況を伝えるようにし、情報の共有に努めている。		気づいたことを話し合いながら、実践できるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の望むような日常が送れるように、柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議等を通じて、民生委員や老人会、地区公民館の方の意見を聞いている。	○	地区の子供たちとの交流を行いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地区のケアマネジャーと話す機会を持つように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、包括支援センターからの意見を聞いている。	○	運営推進会議以外でも、意見を交換する機会を設けたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際も、事業所への理解を得られるよう、情報を交換し、よりよい関係を作るようにしている。		適切な医療を受けられる支援を続けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>利用者の現状を、客観的に医師に伝え、よりよい治療が受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>日常の健康管理、体調の変化を相談し、指示を仰ぐことができる。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>連絡を取り合い、入退院に向けて、情報交換をし、連携に努めている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>重度化したときは個別に対応し、医療機関や家族と連絡を取り合っている。</p>	○	早い段階から、終末期のあり方について、話し合いを持ち、方針を共有したい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>重度になったとき、できることの範囲を検討し、よりよい生活を支えるようにしている。</p>	○	今後の変化に備えた検討や準備を進める。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>わかりやすい情報を文書などで伝えるようにしている。</p>		文書中心ではなく、話し合いを行えるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや誇りを損ねることが無いよう、配慮しているが、時として説得するような口調で話すことがある。	一人ひとりを尊敬し、敬意を持って接する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の気持ちや希望をできるだけ聞くようにしている。しかし、時として利用者に理解されない話しかたをしている。	自己決定することの重要性を認識しながら支援する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その日の体調や気持ちに沿った援助を行っている。しかし、職員の都合が優先されていることがある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替える服を選ぶときも、本人が望み、季節に合った衣服を選べるように支援している。	○ 理容、美容は本人の望む店に行けるようにしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事に反映できるようにメニューを決め、能力が発揮できるよう、工夫しながら調理を一緒にしている。	昔ながらのおかず、季節ごとの食べ物などを一緒に作っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望で買い物に応じたり、いろいろな飲み物を用意している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンをつかみ、その人にあった支援を行うことで、快適に過ごせるような工夫をしているが、トイレの汚れに気づかず、不快な思いをさせてしまうことがある。		常に心地よく排泄できる環境を作る。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を設定し入浴していただいているが、その日に応じて、希望に添えるよう変更している。	○	入浴日以外でも気軽に入浴の希望を言えるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態をみて、休息を促したり、夜の安眠を支援するような昼間の活動に誘ったりしている。	○	薬に頼らずに眠れるようになってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌などの楽しみや、洗濯物をたたんだりという作業に、積極的に参加していただけるように支援している。		多様な楽しみの提供に努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布、現金を持っていただけるよう、ご家族にも理解を求め、できるだけ買い物などの支援を行っている。		自分の財布からお金を出して買い物ができるような支援をしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春から秋にかけては、戸外で過ごす時間も長く、出かける機会も多い。		裏の畑も活用したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画をたて、個人の希望も反映した場所や内容になるよう、外出への支援を行っている。		個人の希望に副えるように支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に贈り物・お手紙など届いた場合は、手紙や電話でご連絡をするように支援している。また、年賀状・暑中見舞いなどできるだけ、ご家族へ本人から出していただけるように援助をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、自室にてゆっくりご歓談していただけるように室温調節をしたりお茶をお運びするなど配慮している。		今後も左記同様ゆっくりとした環境で気軽に訪問して会話を楽しんでいただけるように配慮していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、身体拘束廃止委員会を立ち上げ、身体拘束しないようマニュアルにのっとりスタッフの意識を向上させている。		身体拘束についての研修など今後も参加しつつ、スタッフ間でマニュアルの見直しや意識統一をはかっていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間・日中とも居室に施錠することはない。玄関は、施錠はしていないが、センサーを設置している。		玄関のセンサーについては、徘徊者があり、使用しているが、見守り体制が希薄になったときのみセンサーを利用するよう検討中である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、時間にかかわらず自室で過ごされることの多い方は、訪室して声をかけをさせていただいている。夜間は、基本2時間おきの巡視となっているが、状態に応じて巡視時間を1時間おきにするなど配慮している。		今後も、左記同様にご入居いただいている利用者の安全に配慮しながら声掛けを行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて、その日その日の申し送りやミーティングで検討して危険を回避できるようにしている。		利用者・家族に説明して、ご理解を頂き状態に応じて今後も検討していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策マニュアルを作成しており、ミーティングや等で見直しを行いながら、スタッフ間で勉強したりひやりはっとなどを利用して、対策を検討して、事故防止に取り組んでいる。		今後も左記同様、利用者の状態に応じて検討会を開くなどして事故防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上記同様にマニュアル作成によりミーティング等で利用者の状態に応じて見直したり勉強会を開催したりしている。	○	今後も左記同様に利用者様状況を踏まえ、随時勉強会を行って行くなどして緊急時に対応できるようにしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・災害マニュアルを通して備えている。	○	今後は、近隣の方にも火災訓練など協力を仰いでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者について、家族に起こりうる病状の変化や危険性については、その都度電話、・面会時などに話ができるようにしている。		今後も家族との連絡を密にして安全に生活を送っていただけるようにしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り等を密にして、些細な情報も個人記録・日誌に記載するようにして対応できるようにしている。		今後も左記同様に利用者の状況を踏まえ、記録を行うと同時に、都度対応について検討して対応していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の健康チェック一覧を作成して、服薬情報や病院受診状況を把握できるようにしている。また、日誌や個人記録で身体状況を記載するようしており把握・援助に結び付けられるようにしている。		管理者、看護師勤務経験者に随時利用者の状態変化時は、連絡をとり対応できるようにしている。今後も同様に対応していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や、さんぼをするなど利用者と一緒に予防、または対応として取り組んでいる。便秘の原因等の理解については、日々の申し送り等で摸索して、対応に結びつけたり、管理者・勤務看護師に確認を取ったりしている。		今後も排泄チェックを行いながら、随時対応ができるようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、利用者の状態に応じてうがい・義歯洗浄など声掛け、介助を行っている。		今後も状態に応じて、口腔ケアを支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患の状況や状態に応じて量・バランスをとるように配慮しているが、水分量については、十分に把握はされていない。	○	水分量は、できるだけ、状態に応じてではあるが摂取していただけるように声掛けを行っているが、正確水分量については把握されていないので今後は、容量について把握して個々の利用の状態に応じて水分摂取を促せるように対応していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成して、地域の感染症の状態や季節によっておこる感染症について把握したら、即対策を行うようにしている。		今後も左記同様にマニュアルに従い感染対策に努めるとともにその時々に応じた感染対策を見直していく体制もとっていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、新鮮なものを使用日又は、近日に購入している。調理担当の者は、統一されたエプロンを使用して、調理器具なども洗浄するなど食中毒の予防に努めている。		今後も左記同様に食中毒を予防し、衛生管理を行っていききたい。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花を飾ったりするなど和やかな雰囲気にするように努め、外周には、季節の花を植えるなどしている。		今後も、左記同様に季節の花を利用者だけでなく家族・近隣の方にも楽しんでいただけるように園芸についても充実できるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を花瓶にさしたり、廊下には、楽しんでいただいた行司の、写真を展示するなど配慮している。また、なるだけ、雑音を避けるように配慮している。		今後も左記同様に、季節の花を飾ったりして、利用者に穏やかに季節感を味わっていただけるように配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席など、会話がスムーズにできるように設定して、不都合が生じた場合は、早急に配慮して、場所の検討ができるようにしている。		今後も、左記同様に利用者の状態を観察しながら、和やかにすごしていただけるように配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、自宅で使用されていたものを持ち込んでいたり、仏壇を持ち込まれるなど自宅になるべく近い状況で生活していただけるように入居時に家族に説明している。		花や、家族の写真・本人が、気に入っていたぬいぐるみなど居室においていただいている。今後も、同様に使い慣れたものなど家族と相談しながら持ってきていただき、穏やかな生活を送っていただけるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適時スタッフの判断で行い、室温調整も考慮して、各部屋を訪室して調整するように努めている。		左記同様に、状況を配慮して、換気・室温の調節を行っていくようにする。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各必要箇所に手すりを設置。ベッドの位置についても、個々の利用者の状態に応じて移動の導線となるように配置したりして、安全に移動ができるように配慮している。		今後も、状態に応じた生活動線の確保ができるようにその都度スタッフ間で検討して安全に生活していただけるように配慮していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	さりげない声掛け・見守りを行い、利用者本人ができるだけ自ら判断できるように配慮している。	○	利用者のわかる力を生かせるようにケアに対して、率先して手を出すのではなく 待つて本人の力を発揮していただけるような援助を行なう。スタッフ間で意識統一をミーティングを通じて行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りについては、散歩したり 日向ぼっこができるようにいすを準備したりなど配慮している。		今後も左記同様に利用について配慮していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が気軽に話が出来、希望や不満を伝えることが出来る。「できない」と、利用者や家族があきらめていた、遠出や温泉旅行などを計画し、支援する。